

令和5年度 学校評価・教職員自己評価 成果と課題

1 評価の方法

肯定的な意見「そう思う」、「ややそう思う」と否定的な意見「あまりそう思わない」、「そう思わない」を%で算出した。なお、「わからない」については、職種によって判断できないが生じるので、この項を設定した。「わからない」の回答割合は除いた。【回答者数49名】

また、昨年度との比較をし、昨年度よりポイントが上がった項目は青字で、下がった項目は赤字で示した。5ポイント以上の変化がある項目は太字で示してある。

2 総括

多くの項目(32項目中28項目)について評価が80%以上であり、そのうち100%の達成率は4項目であった。学校評価における教職員自己評価は、良好な評価を得られた。その結果、本年度は学校教育全体に渡って、良好に実践されたと言える。

ただし、評価項目の「6, 教職員が相互理解や信頼関係を深め、協働体制で校務や教育活動などに当たっている」、「7, 管理職・教職員・学年・各分掌などで、報告・連絡・相談・確認が学校全体として機能している。」、「28, 「働き方改革」に向けて、勤務時間を意識して効率よく業務が遂行できている。」、「32, SDGsの取り組みが生徒会活動を中心に生徒の活動として浸透してきている。」の4項目については、更なる工夫や努力が必要であり、教職員の共通理解を図る中で改善していけるよう、取り組んでいきたい。昨年度と比べ向上してきている項目もあるが、課題に関してはさらなる改善をしていく中で、より良い学校運営がなされるよう、令和6年度以降に取り組んでいきたい。

昨年度より導入しているWebによる自己評価であるが、配布、回答、回収、集計など業務改善が図られている。また、ペーパーレスであり、SDGsの観点からも有効であると思われる。しかし一方で、数値的には肯定的であるが、それが言語として表面化されない部分も多くあった。一つ一つの項目ごとに意見を書くのでは無く、大きな項目ごとに意見を書いていただいた関係で、昨年度に比べ意見が増えてきていることは評価できるが、肯定的な意見が埋もれてしまっている部分もあるので、よりよくしていく建設的な肯定意見も多く出されるよう、工夫をしていきたい。

(1) 学校教育目標に関すること ①学校教育目標					
No.	具体的評価内容	そう思う ややそう 思う	あまり思 わない そう思わ ない	そう思う ややそう 思う	あまり思 わない そう思わ ない
1	学校教育目標や重点目標が、社会の変化や地域の特色・生徒の実態に即応したものになっている。	98%	2%	100%	0%
2	職員の共通理解のもと、学校教育目標などをふまえた教育計画が立てられ、それを達成するための教育活動を行っている。	91%	9%	88%	12%
【考察と課題】 ・高評価であり、肯定的な評価が多く、殆どの職員が「共通理解のもと学校教育目標の達成へ向けて尽力した」と考えている。 ・すべての職員が学校教育目標や重点目標が、社会地域生徒の実態を踏まえたものになっていると考えているので、今後も継続していく。 ・学校規模が大きく人数が多いことで、共通理解が難しい部分もあると思うが、どの部分が共通理解を図れていないのかを明確にしながらか対応していく必要がある。					
【改善策】 ・学校教育目標や重点目標、グランドデザインが社会や地域生徒の実態に即応するものとなるようにした上で、目標達成を意識した教育活動を今後も継続していく。 ・教育目標達成のための共通理解を図る上で、どの部分が共通理解できていないのかを明らかにし、その部分を組織的に取り組んでいく。 ・学校教育目標や重点目標の設定に際して、今後も学校運営協議会との連携を強化し、目標の設定を考えていく。					

(2) 学校経営に関すること ②教育課程管理					
No.	具体的評価内容	そう思う ややそう 思う	あまり思 わない そう思わ ない	そう思う ややそう 思う	あまり思 わない そう思わ ない
3	各教科の指導計画・評価計画が適切に作成され、授業時数が確保されている。	85%	15%	96%	4%
4	道徳・学活・総合の授業時数が確保され、それぞれの目標・指導計画に応じて実施している。	88%	12%	94%	6%
【考察と課題】 ・高評価であり、昨年度と比べても肯定的な意見の割合が向上している。 ・コロナ禍も一段落し、学校行事等の取り組み時間が増えていく中、授業変更により、授業時間数を確保する努力が行われている。 ・行事の精選については今後も続けていき、よりよい教育活動が効率的に行われるように進めていく。 ・道徳・学活・総合に関しても授業時数が確保されている。また、計画通り進められているので、今後も継続していく。 ・短縮授業に関しては、会議や行事取り組みの時間設定などを工夫しながら、時間確保をしていく。					
【改善策】 ・授業時数の確保を最優先して、会議や行事取り組みの時間設定を工夫しながら、曜日の入れ替えや授業変更、補欠授業の設定などを今後もきめ細かく対応していく。 ・各教科の指導計画・評価計画が適切であるか、道徳・学活・総合の目標に沿った計画になっているのかを今後も検証をしていく。 ・会議や行事の取り組みの時間など年間を見据えて計画的に行い、授業時間の確保をしていく。					

③学校運営組織					
No.	具体的評価内容	そう思う ややそう 思う	あまり思 わない そう思わ ない	そう思う ややそう 思う	あまり思 わない そう思わ ない
5	学校運営にふさわしい校務分掌(組織や個人)がなされ、それぞれ適切に機能している。	84%	16%	87%	13%
6	教職員が相互理解や信頼関係を深め、協働体制で校務や教育活動などに当たっている。	82%	18%	77%	23%
7	管理職・教職員・学年・各分掌などで、報告・連絡・相談・確認が学校全体として機能している。	67%	33%	77%	23%
【考察と課題】 ・分掌に関しては、適材適所、仕事負担量などを熟慮し決定している。すべての職員が納得できることは難しいかもしれないが、常に分掌を確認しながらよりよいものにしていくよう努力をしていく。 ・教職員が協働体制で教育活動に当たっている部分は昨年度より5ポイント下がっている。相互理解や信頼関係は仕事をする上で重要な部分を占めるので、相談や話し合いがしやすい環境作りに努めていかなければならない。 ・報告・連絡・相談・確認の部分では、昨年度より肯定的な意見が10ポイント上がっている。改善されつつはあるが、より肯定的な意見を増やしていくために会議や打ち合わせを実施する必要がある。 ・否定的な意見から、具体的に改善できる部分を明らかにし、対応していく。					
【改善策】 ・分掌に関しては、様々な要素を熟慮しながら決定していき、決定に至った経緯や要素などをわかりやすく伝えていくように努める。 ・相互理解や信頼関係の構築のため、職員会議や校内研究等で意見交換の場を設け、より多くの意見を集約した中で周知徹底をして共通理解を図る。 ・会議や打ち合わせを設定する際、内容を精査し、回数や時間の削減をし効率よく話し合いができるようにする。 ・人事評価制度の評価や面談などで、校務分掌の意義や取り組みの成果を確認し、わかりやすく伝えていくことで、意欲的に職務が遂行できるようにしていく。また、職務上の困り感などを聞き取り、適切に指導・助言をしていく。 ・掲示板や回覧等を活用しながら、確認事項を効率よく確認できるようにする。					

④安全管理・防災					
No.	具体的評価内容	そう思う ややそう 思う	あまり思 わない そう思わ ない	そう思う ややそう 思う	あまり思 わない そう思わ ない
8	安全・防災・防犯・情報などの危機管理意識を持ち、適切に点検・管理・訓練を行っている。	95%	5%	94%	6%
9	防災計画マニュアルにより大規模地震災害や火災発生時の緊急体制が整備され、避難訓練や引き取り訓練等防災教育が適切に実施されている。	96%	4%	100%	0%
【考察と課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に高い評価であり、安全・防災・防犯・情報などの危機管理に関して高い意識を持って防犯防災教育が実施されているといえる。 ・予告無し訓練を実施することにより、より実践的な訓練が実施でき、職員、生徒の災害に対する考えをより高いレベルまで上げることができた。 ・支援が必要な生徒に対しての対応について、訓練を通してより具体的な対応について確認することができた。 ・訓練の事前事後指導により、防災意識の向上がみられた。 ・地区別協働防災訓練を実施し、地域の中で生徒が主体的に活動し役割が確認できた。 					
【改善策】 <ul style="list-style-type: none"> ・予告無し訓練を増やしていくことで、職員、生徒により実践的に行動できる力を身につけさせていく。 ・避難訓練等では、今後も事前事後指導を含めて防災意識を高めていく。 ・危機管理については、今後も職員研修を実施していき、危機管理意識を高めていく。 ・地区別協働防災訓練において、地区長などと連携をし、生徒がより主体的に参加できるように指導していく。 ・安全点検などで施設設備の安全を確認しているが、普段から意識できるように啓発を行い、異常があった場合はすぐに気づくような環境作りをしていく。 					

⑤特別支援教育					
No.	具体的評価内容	そう思う ややそう 思う	あまり思 わない そう思わ ない	そう思う ややそう 思う	あまり思 わない そう思わ ない
10	教職員の共通理解の基で特別支援教育の体制が整えられ、計画的、効果的な指導を行っている。	93%	7%	86%	14%
11	専門機関などとの連携を図り、特性や障害に応じた指導計画の作成や適切な指導を行っている。	93%	7%	92%	8%
【考察と課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・共通理解のもとで計画的で効果的な指導を行っているという項目が、昨年より7ポイント下がっている。特別な支援が必要な生徒が増えていく中、どうすれば効果的な指導ができるのかを明らかにする必要がある。また、指導に関しては学校全体の中で共有をしていきたい。 ・スクールカウンセラーや外部機関との連携を今後も継続していき、特性や障害に応じた指導計画を作成していきたい。 					
【改善策】 <ul style="list-style-type: none"> ・学校全体として特別支援教育に関わり、校内支援会議などで生徒個々の特性や障害を確認、共有しながら、計画的に指導を行う。 ・特別支援学級の生徒だけでなく、支援が必要な生徒を確認し、スクールカウンセラー等と積極的に連携しながら、適切な指導を行っていく。 ・福祉支援機関や医療機関等と連携を取りながら、心理面、生活面などの支援を継続していく。 					

⑥校内研究					
No.	具体的評価内容	そう思う ややそう 思う	あまり思 わない そう思わ ない	そう思う ややそう 思う	あまり思 わない そう思わ ない
12	本校の実態をふまえ、教育課題に対応した校内研究が企画され、意欲的、積極的、発展的に取り組んでいる。	96%	4%	100%	0%
【考察と課題】 <ul style="list-style-type: none"> すべての職員が肯定的な意見であった。校内研究のテーマのもと、見通しを持った計画、丁寧な資料のおかげで研究が深められた。 講師を招いた研究会は、生徒、職員の現状にあった実践的ですぐ実行できる内容であった。学級集団づくりに活用して欲しい。 研究会の形式も、討議の場面が多く、ベテランの職員から若手の職員まで幅広く意見交換ができた。それぞれの立場での意見を共有しながら今後の教育活動に生かせるとよい。 教師間でお互いの授業を気軽に見合うような機会を設定して、普段から授業研究ができるようにしていた。今後さらに継続・発展させていきたい。 					
【改善策】 <ul style="list-style-type: none"> 授業研究、学級集団づくりは教師として日々研修を続けていくものである。今後も、校内研究という場のみならず、日常の中でも研鑽を続けていく。 話し合い活動は「主体的・対話的で深い学び」に必要なものである。職員・生徒が話し合いのスキルが身につくような活動を継続していく。 					

(3) 学習指導に関すること ⑦学習指導・家庭学習⑧評価⑨キャリアパスポート					
No.	具体的評価内容	そう思う ややそう 思う	あまり思 わない そう思わ ない	そう思う ややそう 思う	あまり思 わない そう思わ ない
13	課題や疑問に感じたことを自分から調べるなど、Chromebookを効果的に活用し、興味を持たせて学習に取り組んでいる。	88%	12%	89%	11%
14	「めあて」で見通しを持ち、「振り返り」で成果を確認することで、生徒の学びに向かう力を意識した授業づくりに取り組んでいる。	98%	2%	96%	4%
15	「主体的、対話的で深い学び」の視点から授業改善を進め、質の高い学びの実現に努めている。			91%	9%
16	生徒が学ぶことと大切さを認識し家庭学習を自主的に進めていくよう、意識向上の取り組みを行っている。	76%	24%	83%	17%
17	リモート授業の実施や相談室の活用により、どのような状況に置かれている生徒に対しても学習の保障に努めている。	100%	0%	98%	2%
18	観点別学習状況の評価・評定を生徒や保護者に明確にし、信頼性を確保し、説明責任が果たせるよう努めている。	100%	0%	96%	4%
19	キャリアパスポートの効果的な利用を含め、職業観や人間関係形成・社会形成能力を育成するための指導に努めている。	80%	20%	83%	17%
【考察と課題】 <ul style="list-style-type: none"> Chromebookの活用が定着してきて、授業においてプリントや資料集の代わりに使用している授業もある。ICT機器が特別なものではなく、普段使いの学習用具の一つとなってきている。今後は話し合いの場面や意見の共有の場面での使用など、より効果的に活用できるよう研究していく必要がある。 どの授業も、めあてを明確に示しながら見通しを持って授業を進めている。今後は、振り返りにも重点を置き、授業の成果を確認する活動を充実させていく必要がある。 家庭学習を自主的に進めていくことに関して、昨年度より7ポイント上がっている。しかし、保護者や生徒アンケートでは「たまにやる」「ほとんどやらない」が4割ほどの回答である。家庭学習習慣の定着の取り組みに関しては学年や学級ごとに差がある部分もあるので、学校全体として取り組む必要がある。 生徒の学習を保証するためのリモート授業に関しては、体制や環境が整備されてきた。今後リモート授業参加をどのように位置づけていくか、リモート授業でどこまで求めていくのか検討が必要である。 					
【改善策】 <ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した授業実践例の研修や資料の共有を積極的に行い、話し合いの場面なども含めICT機器がより身近な学習ツールとして定着していくようにする。 確かな学力の育成に向けて、生徒が主体的に学習できるように対話的な活動を取り入れ、より一層の授業改善に取り組んでいく。 ICT機器を家庭学習などで活用することにより、家庭学習の定着と個別最適な学びの充実に努める。 キャリアパスポートを活用し、目標設定や振り返りの場を設け、教師が対話的に関わることで、キャリア形成を促していく。 リモート授業の充実を図り、生徒の学習保障のためのリモート授業であることを確認し、実施方法等について改善していく。 					

(4) 生徒指導に関すること ⑩生徒指導					
No.	具体的評価内容	そう思う ややそう 思う	あまり思 わない そう思わ ない	そう思う ややそう 思う	あまり思 わない そう思わ ない
20	生徒指導目標に沿って、組織的な生徒指導体制が構築され、情報交換および指導の方向性が統一されて指導が進められている。	95%	5%	85%	15%
21	いじめ・問題行動や不登校の予防、早期発見や解決に向けて学年、全校体制で適切に指導に取り組んでいる。	100%	0%	98%	2%
22	携帯電話やSNS等の適切な使用について、情報モラルや依存症等の対策を含め適切な指導がおこなわれている。	100%	0%	94%	6%
【考察と課題】 ・情報交換及び指導の方向性が統一されて指導が進められているという項目では、昨年度より10ポイント下がっている。肯定的な数値が決して低いわけではないが、細かい部分での意思統一、情報共有がなされていない状況も生まれている。学校全体が同じ基準で指導できているかを確認していく必要がある。 ・いじめ・問題行動や不登校の対応については、定期的な会議の設定やアンケートの実施などを行うことで適切に指導に取り組んでいるという肯定的な意見がほとんどであるが、保護者アンケートでは2割程度が否定的な意見であった。アンケートや生徒・保護者からの訴えを基に対応するだけでなく、職員が気づいたり早期発見ができるような環境作りを進めていきたい。 ・SNS、特に携帯電話の使用に関しては、保護者と連携を取りながら取り組んでいく必要がある。情報モラルに関しては、身近な例などを挙げつつ、他人事では無く自分事として捉えることができるような指導をしていく必要がある。					
【改善策】 ・定期的な会議の中で、報告・連絡・相談・確認を徹底し、生徒指導担当を中心に組織的な生徒指導体制を確立していく。 ・生徒指導が全校体制で行えるよう、情報の共有や共通理解、生徒理解を継続して進めていく。 ・不登校生徒に関しては、スクールカウンセラーや外部機関等を活用し、担任だけでなく全校体制で粘り強く対応していくことが必要である。不登校生徒一人ひとりに対応するための研修などを設けつつ、生徒理解、保護者理解を継続していく。また、不登校を未然に防ぐため、欠席が続く生徒への対応を組織的に行う。 ・SNSによるいじめが重大な人権侵害に当たることを理解させるなど、具体的な例をあげながら情報モラル教育を推進する。 ・問題が起きたときは、事実関係を正確に捉え、教師間の連携を図りながら組織的に対応していく。					

(5) 保護者・地域社会との関連に関すること ⑪情報発信⑫PTA活動・コミュニティスクール					
No.	具体的評価内容	そう思う ややそう 思う	あまり思 わない そう思わ ない	そう思う ややそう 思う	あまり思 わない そう思わ ない
23	保護者と連携して教育活動を進めるよう、HP、各種通信、お知らせ・動画配信、電話連絡・家庭訪問などで情報提供をしている。	100%	0%	98%	2%
24	学校開放日や有価物回収、人権講話や地域ボランティア等の利用を始め、PTA活動、学校運営協議会の活性化をはかり保護者、地域との連携を深めている。	100%	0%	98%	2%
【考察と課題】 ・どちらの項目も高い評価であり、保護者や地域社会との関連は適切に行われているといえる。 ・コミュニティスクールとして、地域社会とのつながりが深く、地区別協働防災訓練、有価物回収等、地域の人たちと一緒に教育活動が実施できているが、活動の見直しや改善も行っていくように心がける必要がある。 ・HPや動画配信、安心メールなどICTを活用した情報発信を行うことで、保護者、地域の方への情報提供が、スムーズにできている。 ・学校開放週間や授業参観などを通して保護者が生徒の様子を見る機会を多く設定することができた。					
【改善策】 ・地区別協働防災訓練や有価物回収等において、地域とともに活動する目的をもう一度確認し、生徒の自主性をより高めていくようにする。 ・地域社会との協働活動の反省から、改善点を洗い出し、よりよい活動にしていくために見直しをしていく。 ・今後もHPや動画配信、安心メールなどを活用し、保護者や地域の方に、学校の情報をより多く提供できるようにしていく。 ・PTA活動や学校運営協議会、地域ボランティア等と連携をし、地域協働的活動を充実させていく。					

(6) 施設・設備に関すること		⑬施設・設備			
No.	具体的評価内容	そう思う ややそう 思う	あまり思 わない そう思わ ない	そう思う ややそう 思う	あまり思 わない そう思わ ない
25	学校施設設備は、安全な生活環境やふさわしい学習環境として整備されている。	100%	0%	98%	2%
26	教育活動に必要な設備や教科備品・部活動備品など、有効活用している。	100%	0%	100%	0%
27	「働き方改革」に向けて必要な設備や教科備品等を活用している。	73%	27%	85%	15%
<p>【考察と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設設備、備品の量的充実については、ほぼ良好であるといえる。 ・生徒数の増加に伴い校舎の増築が行われた。来年度はよりよい学習環境が提供できると考える。 ・新しく導入された施設設備、備品については、使用目的を理解し、より有効な使用方法を考えていく。 ・教育活動に必要な設備、備品の活用については、すべての職員が肯定的な意見であった。今後も有効的に活用していくように取り組んでいく。 ・働き方改革に向けて必要な設備や備品の活用については、昨年度に比べ肯定的な意見が12ポイント上がっている。働き方改革に関して意識の向上があったと考えることができる。 					
<p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しく導入された施設設備、備品に関して、有効活用していくことが働き方改革にもつながっていくことを意識できるようにしていく。 ・備品や消耗品に関して、利用目的をもう一度確認し、大切に使うことを常に意識しながら業務にあたる。 ・働き方改革に向けて、必要な設備や備品が整備されていることを認識し、負担軽減や業務削減を考えていく。 					

(7) 学校の特色に関すること ⑭ 学校の特色					
No.	具体的評価内容	そう思う ややそう 思う	あまり思 わない そう思わ ない	そう思う ややそう 思う	あまり思 わない そう思わ ない
28	「働き方改革」に向けて、勤務時間を意識して効率よく業務が遂行できている。	73%	27%	71%	29%
29	生徒は、楽しく学校生活を送っている。	98%	2%	98%	2%
30	生徒は、目標をもって学校生活を送っている。	93%	7%	90%	10%
31	安心メールの活用によるペーパーレス化は本校の特色として定着してきている。	98%	2%	96%	4%
32	SDGsの取り組みが生徒会活動を中心に生徒の活動として浸透してきている。	95%	5%	77%	23%
【考察と課題】 <ul style="list-style-type: none"> 働き方改革については、肯定的な意見が7割程度にとどまっている。定時退勤日の設定や時間外在校時間の管理など時間を意識する取り組みを行ってきたが、すべての職員の意識改革までには至っていない。新たな取り組みを模索する必要がある。 楽しく学校生活を送っているに関しては、生徒アンケートで9割、保護者アンケートでも8割以上が肯定的な意見となっている。多くの生徒が楽しく学校生活を送っている様子がわかる。しかし、不登校や休みがちな生徒、相談室登校の生徒がいることも事実であり、そういった生徒たちへの対応も進めていく必要がある。 安心メールの活用は本校の特色として定着してきている。お知らせや通知など、配布漏れなどがなく職員の負担軽減にもなっている。しかし、運用に関しては、保護者の意見を聞きながら絶えず見直していくことが望ましい。 SDGsの取り組みに関しては、昨年度より18ポイント下がってしまった。取り組み自体が停滞をしているわけでは無いと思うが、2年目ということもあり、マンネリ化してきているのかもしれない。職員もSDGsの意識を高め、積極的に活動していくことが望まれる。 					
【改善策】 <ul style="list-style-type: none"> 働き方改革については、業務改善担当を置くなど、より具体的な業務改善策を提案していく。 勤務時間を短縮することで、より豊かな生活を送ることができるという前向きな意識を育て、業務の効率化を自ら考えていけるような取り組みをしていく。 すべての生徒が楽しい学校生活を送ることができるように、個に対応した指導を全校体制で行っていく。 情報発信やペーパーレス化にあたっては、個人情報に留意し、ペーパーレス化による弊害が出ないよう常に見直していく。 SDGsの取り組みは、社会全体の取り組みであることを意識し、SDGsが将来の地球に、自分たちに影響することを考えさせ、日常の活動の中で自然に行動できるように仕組んでいく。 					